

## 1. 結果のポイント

- ・正答率は64%で、全国の62.5%を1.5ポイント上回っている。大分県は64%で同じポイントであった。
- ・領域別では、「数と計算」「変化と関係」で全国の正答率を上回っている。「図形」は0.2%「データの活用」では1.0%とわずかではあるが全国を下回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」で1.5%、「思考・判断・表現」で1.7%、全国の正答率を上回っている。

## 2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

（※全国平均を下回っていたもの・正答率が低かったもの）

- (1) 図形 2 (4) テープを直線で切った二つの三角形の面積の大小について、それぞれどのようなことを表しているのかを選び、選んだわけを書く。

### ① 出題のねらいと内容

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

### ② 解答状況

正答率 16.6% (全国 20.8%)

- ・誤答・・・テープの幅が三角形の高さになることを捉えられていない児童が多い。テープの幅の数値も示されていないため、面積の大小について「判断できない」と解答した児童は35.8%であった。また、三角形の高さを底辺に対して垂直と考えず、底辺以外の一边を選び解答している児童が30.9%であった。

### ③ 指導の改善事項

三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さや面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。面積が等しく、形が異なる三角形の面積について、実際に計算で面積を求めることで、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなることを理解できるようにすることが大切である。さらに、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなるということを、三角形の面積の公式から判断できるようにすることも大切である。

図形の面積を求めるために、どの部分の長さが必要であるかを判断する活動も考えられる。例えば、多くの辺の長さが示されている場面において、平行四辺形の面積を求めようとするとき、

必要な情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めることができるようにすることが大切である。

(2) 変化と関係 **4** (1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。

① 出題のねらいと内容

百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。

② 解答状況

正答率 44.4% (全国 46.0%)

- ・誤答・・・正答である「100人をもとにした30人の割合」「10人をもとにした3人の割合」以外を組み合わせて選択した児童が半数以上いた。
- ・100人を基準量としたときの比較量は理解しているが、10人や30人を基準量とするとそれに対する比較量は捉えることができない
- ・基準量はいつも100であると捉えている(市：20.8%全国：14.4%)
- ・30%を30人をもとにした1人と誤って捉えている(市：16%全国18.8%)等が考えられる。

③ 指導の改善事項

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。その際、図を用いて、百分率は基準量を100としたときの比較量の割合であることから、100人を基準量としたとき、それに対する比較量は30人と捉えることができるようにすることが大切である。また、歩合は基準量を10としたときの比較量の割合であることから、10人を基準量としたとき、それに対する比較量は3人と捉えることができるようにすることも大切である。

さらに、30%を「30人をもとにした1人の割合」と捉えている場合、30人を基準量としたとき、10%が3人であることから、30%が9人であることを確かめ、誤りに気付くことができるようにすることが大切である。なお、30%を小数で表すと0.3であることから、30%は「100人をもとにした0.3人の割合」とであると誤って捉えている場合、百分率で表された割合と小数の関係を理解できるようにすることが大切である。

【参考・引用】 令和5年度

全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)